

中国医事制度史における按摩につ

いて

——隋・唐時代を中心として——

山 本 徳 子

中国の医事制度において、按摩を職とする官は隋代には
じまる。

隋制のほとんどを踏襲している唐代において、医事制度
に關しても同様である。

按摩の部門の場合、按摩博士（従九品下）・按摩師（流外
三品）・按摩工（流外四品）・按摩生（雜任）が置かれてい
る。

按摩博士の職務は『旧唐書』によると、

按摩博士掌教按摩生消息導引之

とあり、『新唐書』には

掌教導引之法以除疾、損傷折跌者正之

と記されている。『大唐六典』では、この兩者を併せた記
載がある。

これらの記事から、唐代の按摩とは、疾病を除く、とい
った内科的なことのほかに、損傷折跌を正す、という正骨
・傷科的な治療を行っていたことが知られる。

この按摩科は、宋・元時代においては消え、明代に現わ
れ、また、清代に消えている。一説によると、明代におい
て按摩が推拿に改称されたのだという。

いっぽう、唐代の按摩の中での正骨的なものとの関連性が
あるとみられる正骨科についてであるが、元代において初
めて置かれている。明代では正骨科は存しないが、接骨科
が存している。さらに、清代になると、また、正骨科が復
している。

唐代にはじまる按摩部門をめぐって、のちの推拿・正骨
との関わりあいについて考察を試みる。

（横浜市立大学医学部医史学研究室）